

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和元年八月度 入選句（投稿総数二千二百三十四句・小中学投句数千七百八句）

特選

ゆかた着てせずじがぴんとのびました 大垣市 谷口 紅愛(小五)

夏祭りや花火大会などのイベントに出かけるのでしょうか。襟元をきゅつと締め、兵児帯をく
るりと結んだ、かわいらしい浴衣の少女の姿が浮かんできます。幼さが残るその一方で、「せず
じがぴんとのびる」という言葉から、大人に少し近づいているような「凜とした美しさ」も感じさ
せられる俳句です。

くわがた虫もとうとしたらはさまれた 大垣市 はぎわら こう(小二)

くわがた虫を素手でさわるのは、なかなか勇気がいる。作者は思い切つて持ち上げようとした
のだらう。少しふれると、そのかたい体にびつくり。一度出した手をひっこめたのかもしれない。
もう一度ふれてみる。すると、くわがた虫が急に動いて、思わず手を引っ込める。やつと持ち上
げたと思つたら、あごではさまれてしまった。小さなくわがた虫に翻弄される人間の姿が面白
く表現されている。

ふうりんがチリンと鳴ると風がふく 大垣市 小林 杏小三

誰もが「風が吹いたから風鈴が鳴る」と常識で物事をとらえている。確かにそうだ。ところが、
私はこの俳句をよんで、はっと目が覚めた。そうかもしれない。風鈴が「チリン」と音を鳴らして、
涼しい風を呼んでいるのだと。あの優しい音は、風を呼んでいるのだと。子どもらしい、やわらか
な発想に包まれた俳句である。

秀逸

ゆうやけにつられてしまいよるになる 大垣市 はせがわ めい(小二)

けむしはねみえないはりでさしてくる 大垣市 まつむら ひな(小二)

夏服でダンスにすきまできました 大垣市 大橋 彩乃(小五)

ひとつずつ赤く色づくミニトマト 大垣市 渡邊 志織(小五)

すいかわり一二の三ですなちらす 大垣市 神村 咲風(小五)

せん風機みんなの心風がふく 大垣市 多湖 好香(小五)

夏の川光のかけらのせている 大垣市 西尾 奏風(小六)

青葉道かたをならべてかたり合う 大垣市 阿部 未来(小六)

ばあちゃんの麦茶でぼくは生きかえる 大垣市 鹿野 獅琉(小六)

いえのなかかとりせんこうガードマン 大垣市 きむら ゆうき(小二)

入選

太ようがぎらぎら光る夏休み	大垣市	早野	莉央(小三)
われわれはうちゅうじんでせん風機	大垣市	古川	葵(小四)
うみびらきまちにまತ್ತたスライダー	大垣市	早野	太陽(小五)
ひまわりが太陽向いて前ならえ	大垣市	岡本	大岳(小五)
たきの音周りの音を消していく	大垣市	中嶋	彩(小六)
手の上に滝のしぶきがとんでくる	大垣市	台蔵	なほ子(小六)
青葉風こいもふりむくきもちよさ	大垣市	佐々木	祐子(小六)
風がふき汗が流れる背中から	大垣市	平井	隆吉郎(小六)
夏の昼どこへ行ってもサウナ室	大垣市	小川	泰宜(小六)
風ふけば青葉ざわつくむすびの地	大垣市	内田	澤里(小六)

入選

たきのそばお寺の人が修行中	大垣市	日比野	航典(小六)
かたつむりゆめがいっぱいうずまきだ	大垣市	きむら	ゆうき(小二)
さくらんぼ二つで一つなかよしだ	大垣市	太田	菜々(小四)
ゆうやけが山の後ろでかくれんぼ	大垣市	廣田	沙由理(小五)
アイスがね話す間にとけちゃった	大垣市	村若	朋輝(小五)
雨がえる晴れているのに雨宿り	大垣市	廣畑	裕美子(小五)
五回転フラつきながらすいかわり	大垣市	野村	陽向(小五)
夜蟬鳴く階下に母の声のして	加茂郡川辺町	村木	順哉(中二)
スーパ―の花火売場で立ち止まる	加茂郡川辺町	水野	元貴(中二)
炎天下長袖羽織る都会の子	加茂郡川辺町	後藤	蓮誠(中三)

選者吟

畑の方海の方まで鉄道草

恵理